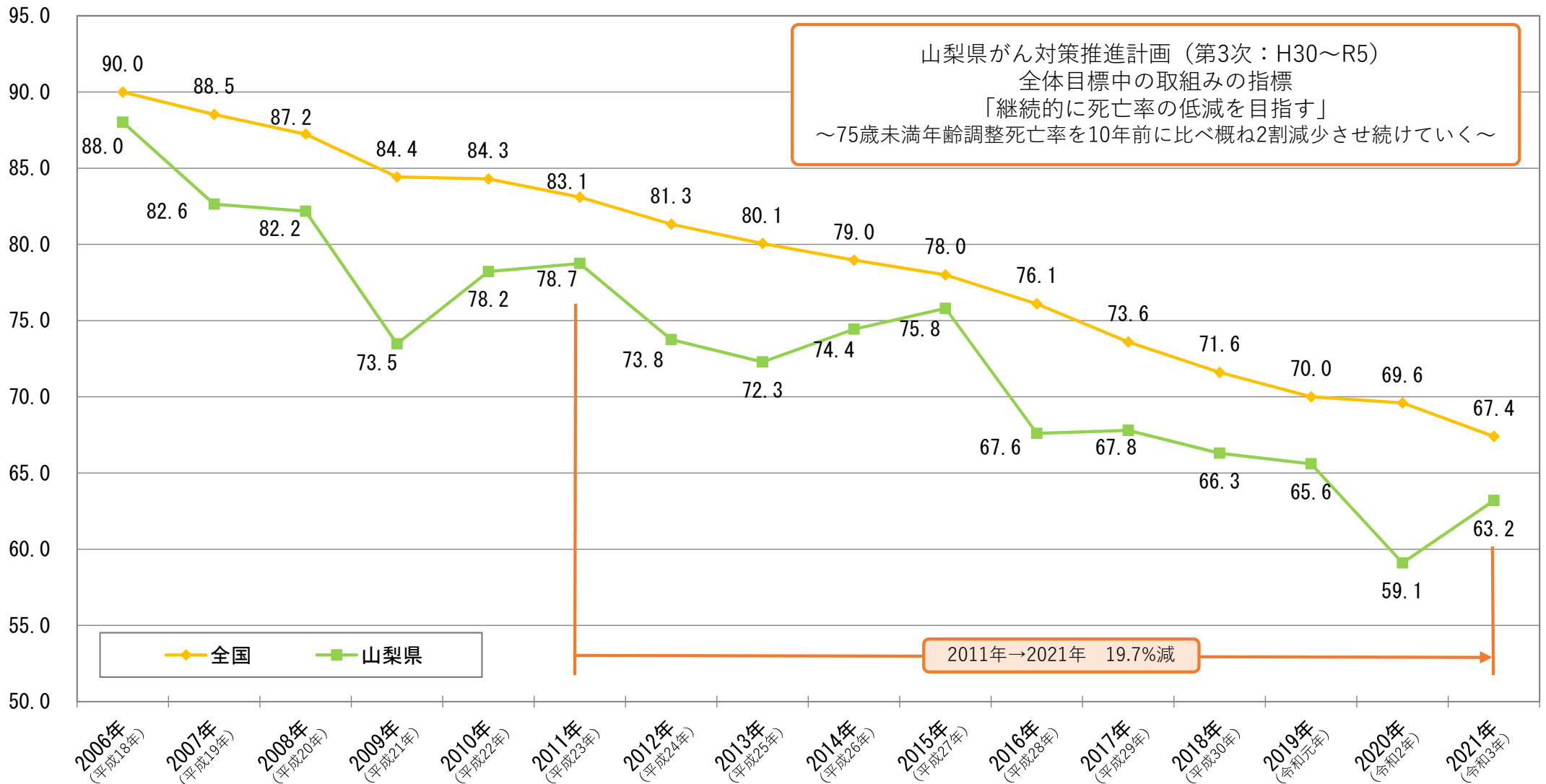


山梨県におけるがんの現状

山梨県 健康増進課がん対策推進担当

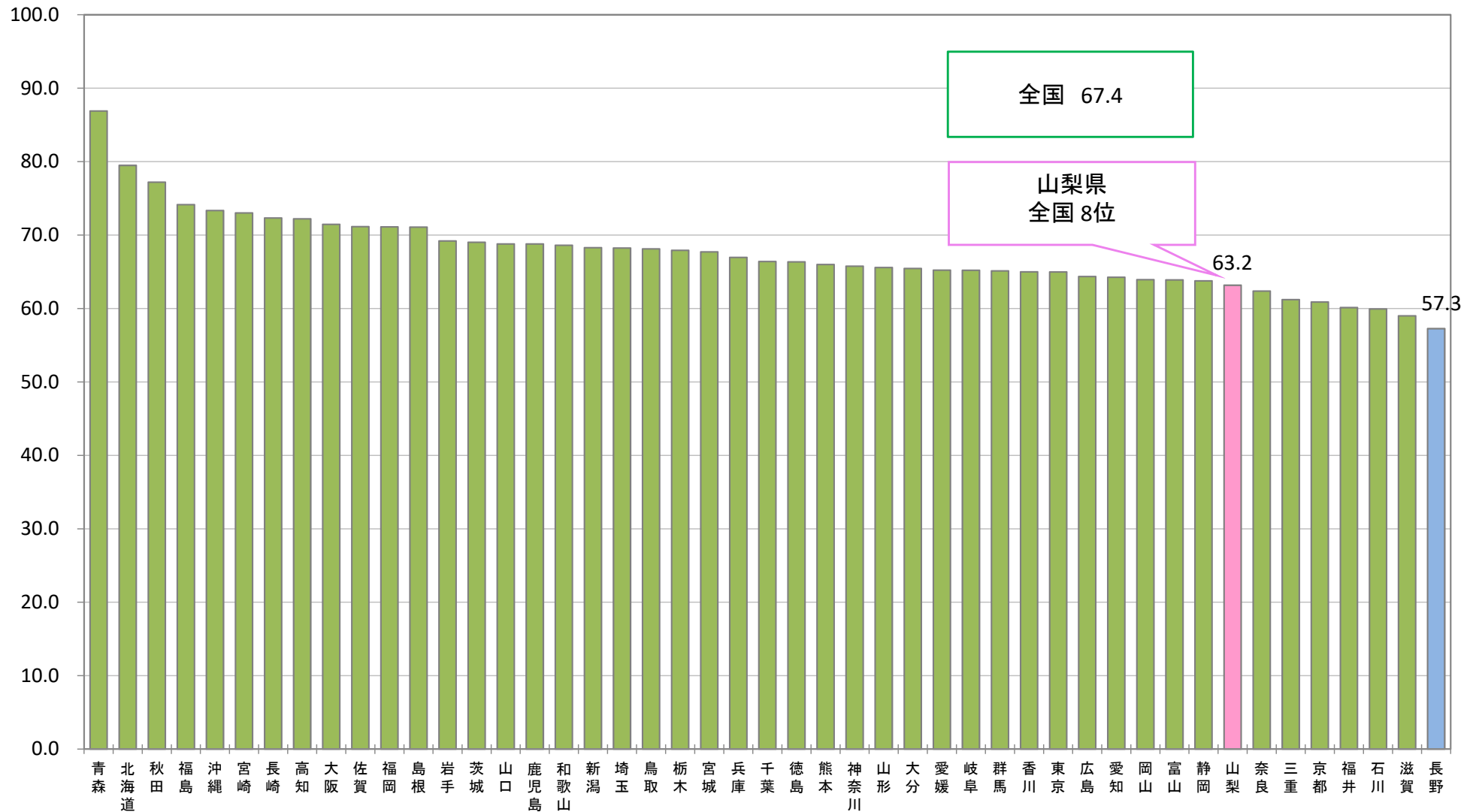
75歳未満年齢調整死亡率の全国との比較(人口10万対)



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

「75歳未満年齢調整死亡率」は、がん対策全体の指標となっており、全国は毎年着実に低下している。山梨県は、これを常に下回っており、人口規模が小さいことから、値にばらつきがあるものの全体としては「10年間で概ね2割」減少している。

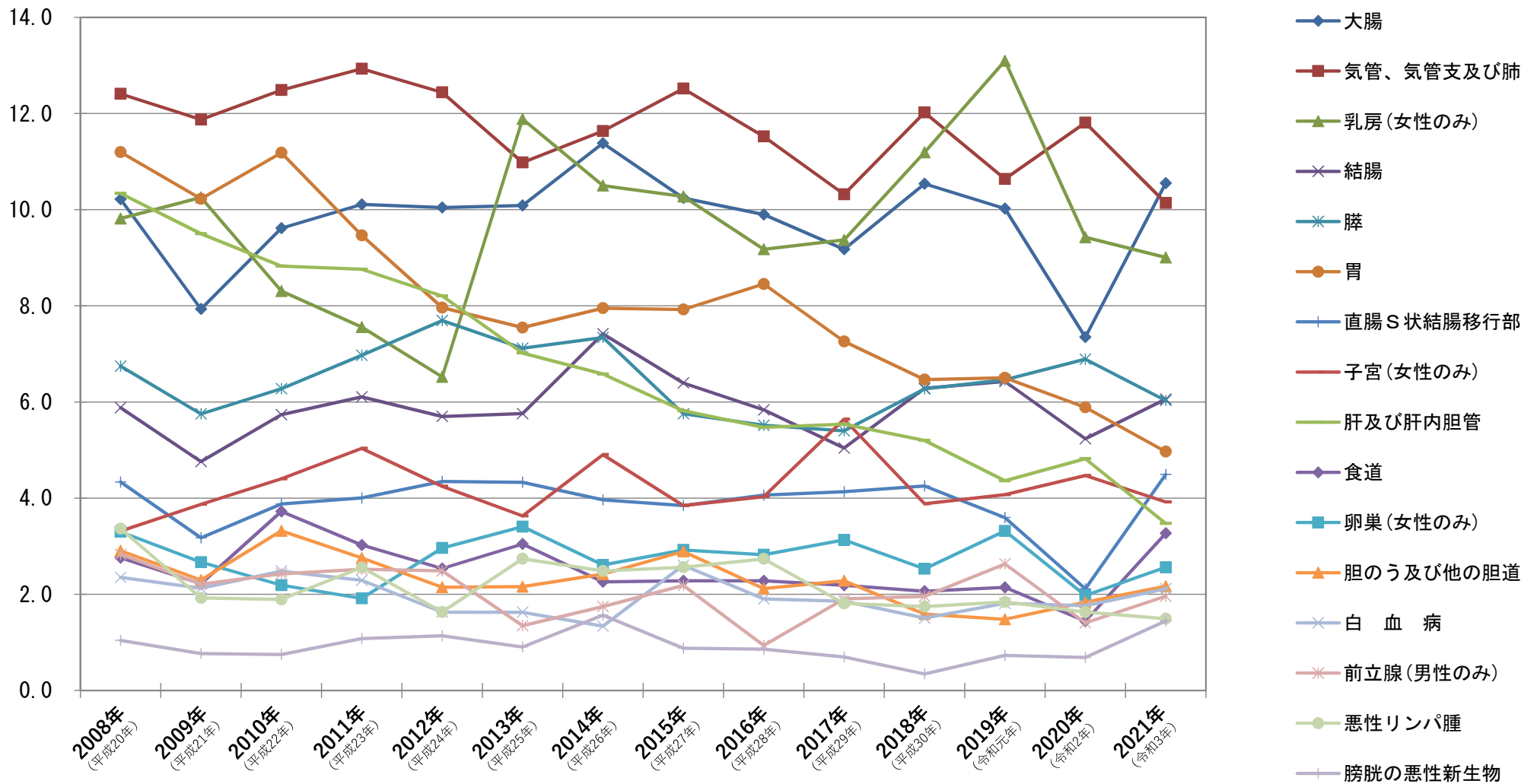
2021年75歳未満年齢調整死亡率(男女計 人口10万対)



出典: 国立がん研究センター がん対策情報センター

各都道府県の75歳未満年齢調整死亡率を比較すると、山梨県は低い方から8位となっている。

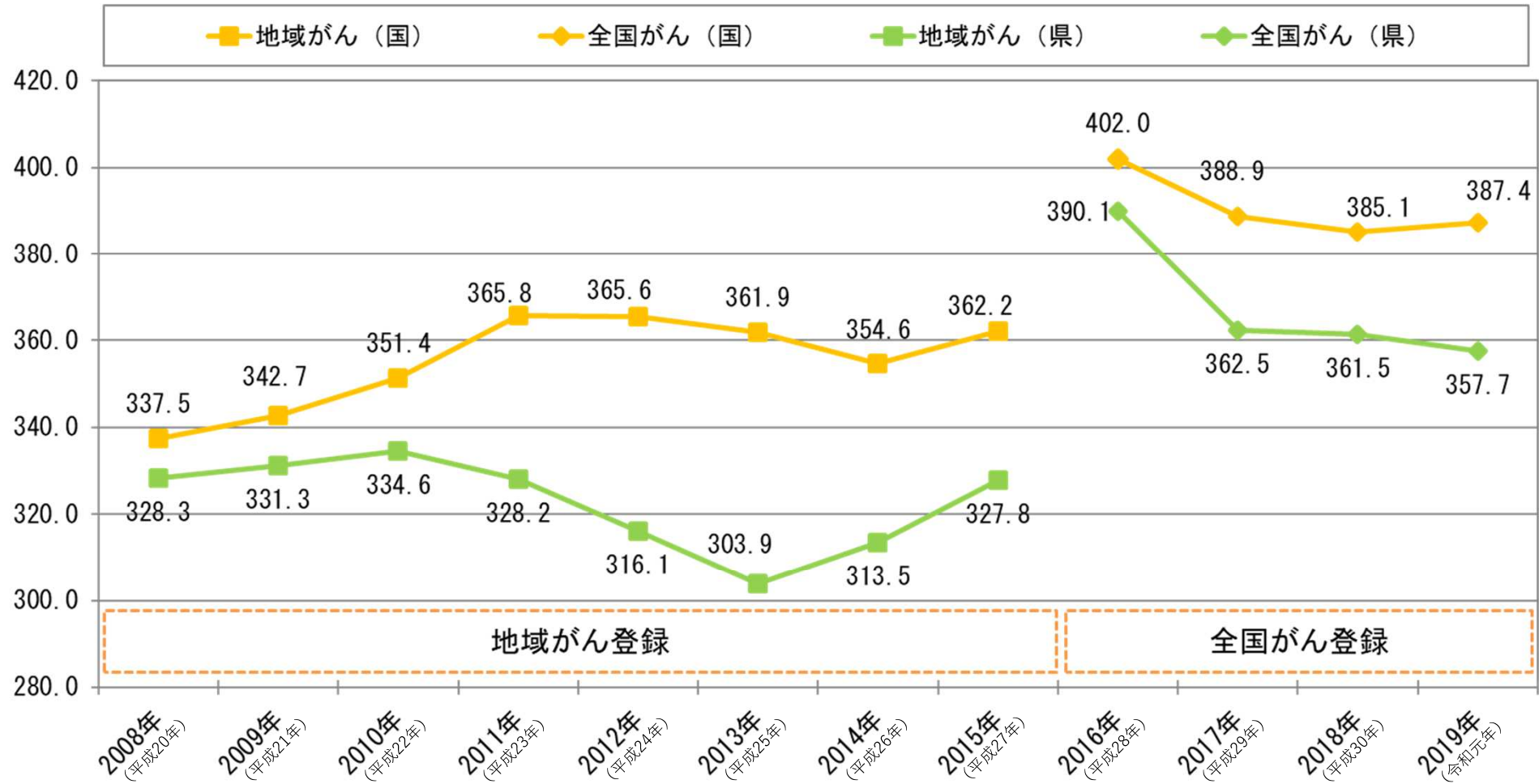
部位別75歳未満年齢調整死亡率（人口10万対）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(人口動態統計)

2021年は、大腸がんが大きく増加し第1位となり、続いて肺がん、乳がんの順となっている。胃がんと肝がんの減少が大きいのに対し、それ以外のがんは横ばい傾向である。

全部位年齢調整罹患率の全国との比較(上皮内がんを除く) (人口10万対)

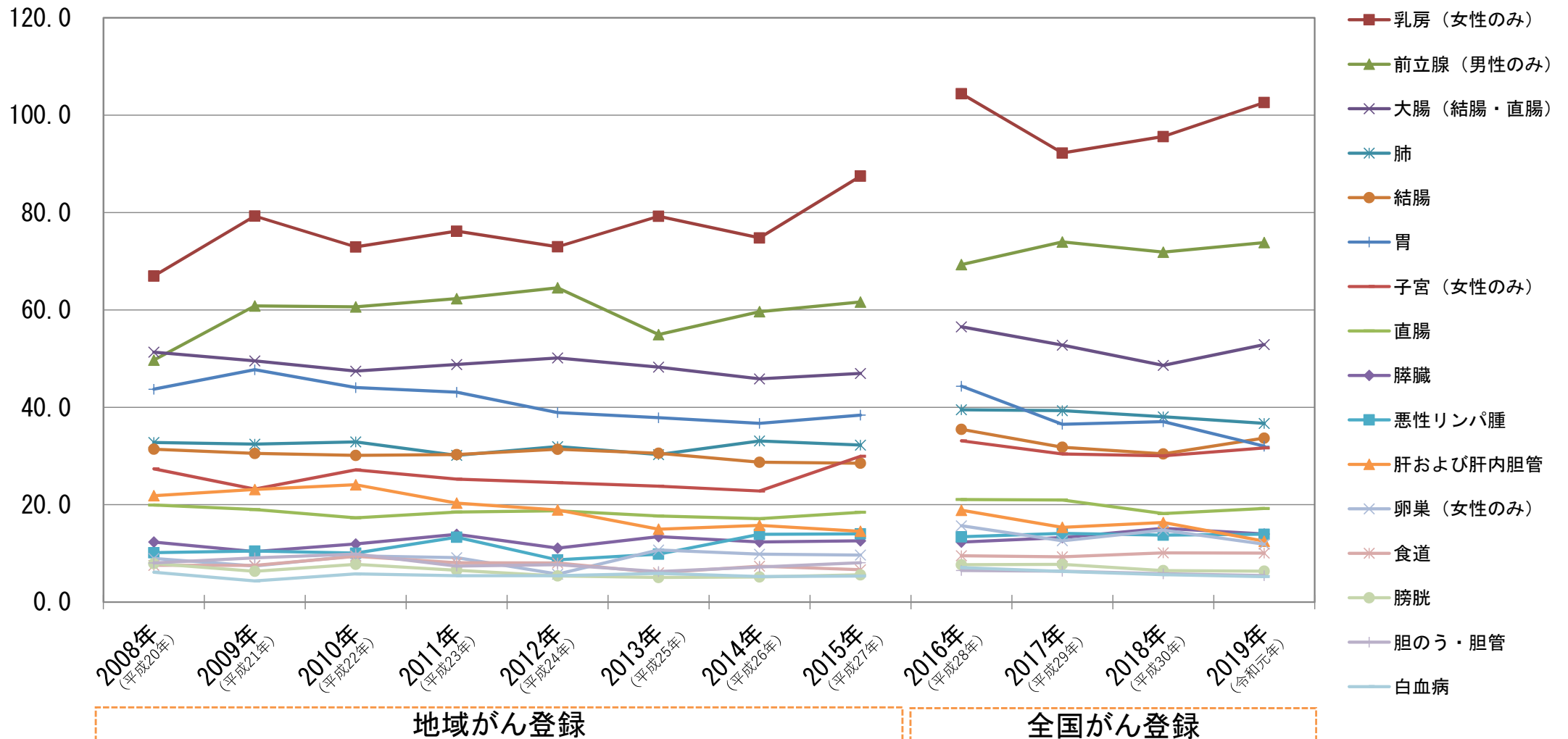


出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

高齢化の影響を取り除いたがんに罹る人の割合(年齢調整罹患率)は、がんの予防についての総合的な指標となる。山梨県においては、統計を取り始めた2008年以降、各年において全国を下回っている。

部位別年齢調整罹患率(人口10万対)(上皮内がんを除く)

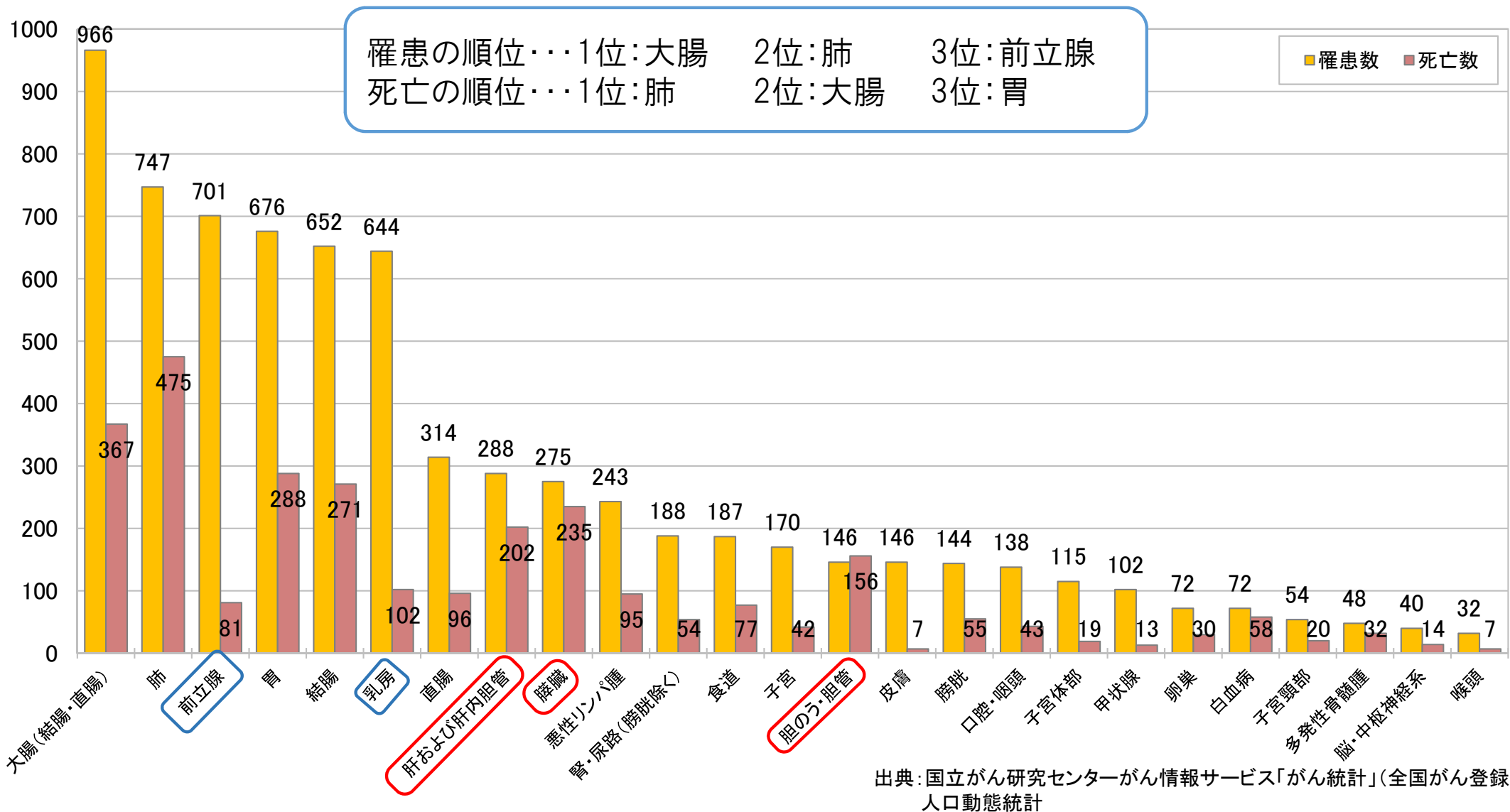
罹患の順位 1位:乳房 2位:前立腺 3位:大腸 4位:肺 5位:結腸



出典: 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計(MCIJ))
 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録)

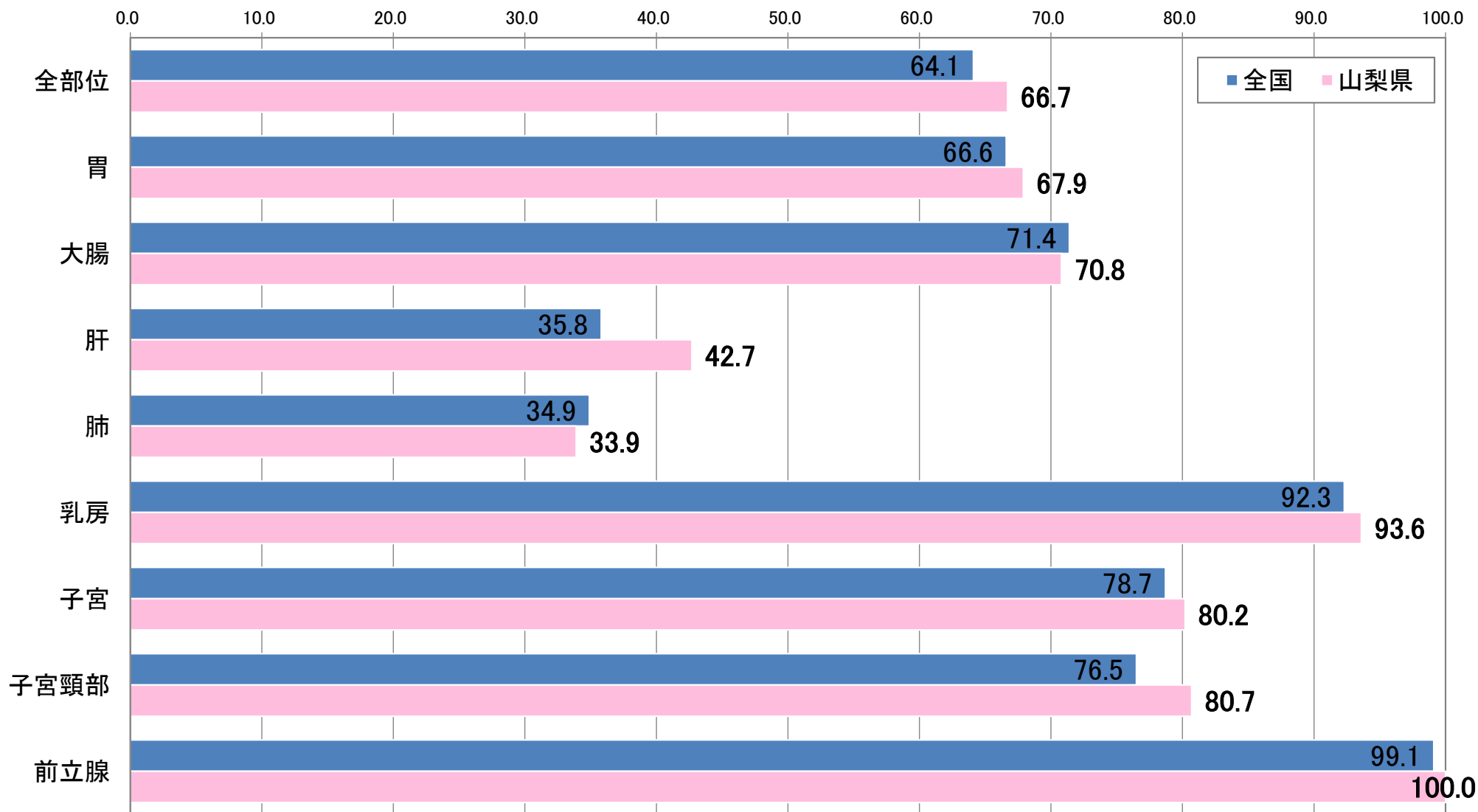
部位別罹患率は、乳房、前立腺、大腸と続き、この傾向は過去10年間変わっていない。

山梨県の罹患数と死亡数の比較(2019年)



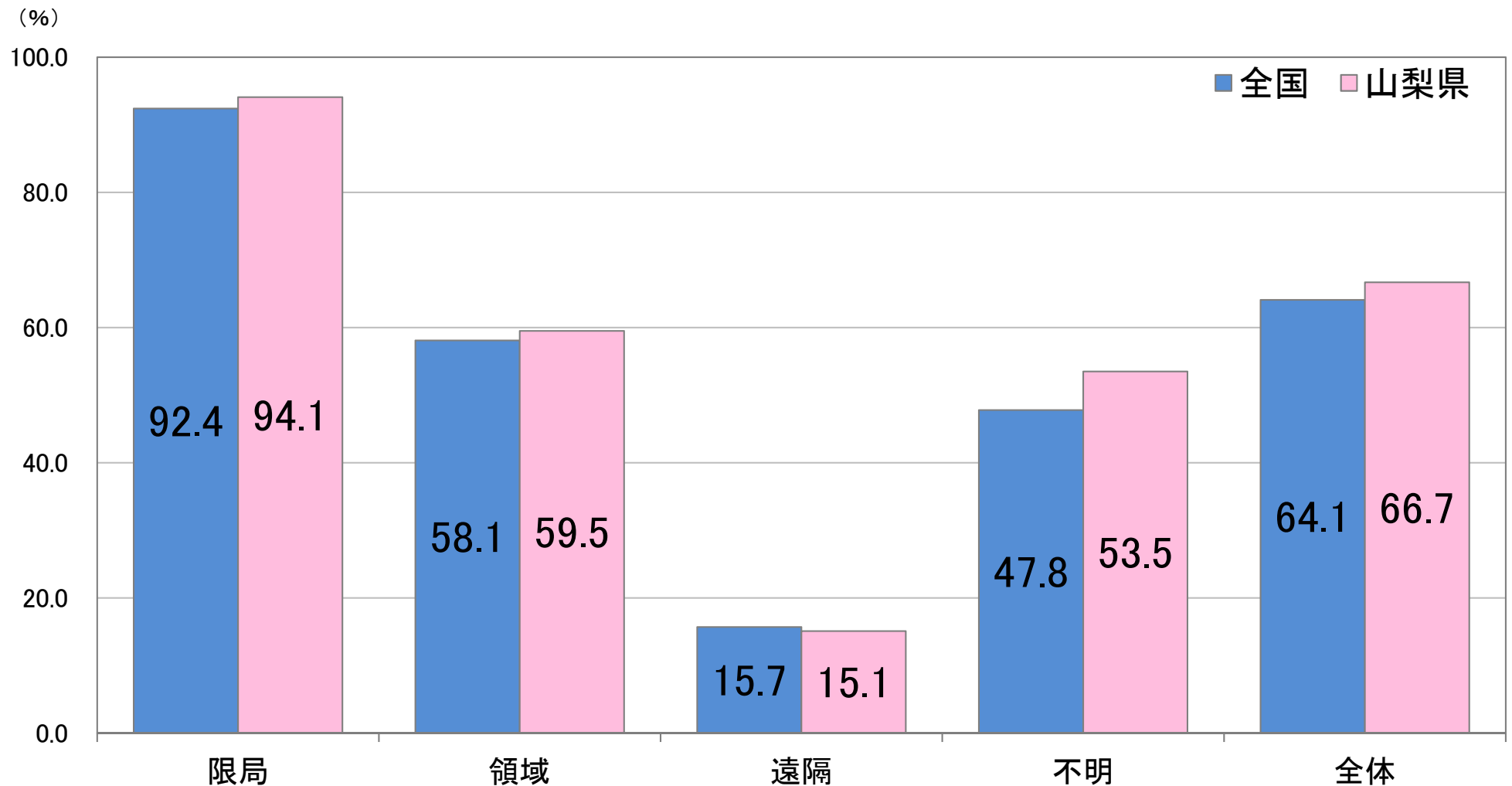
がんにかかった人の数(罹患数)は、大腸がんが最も多く、肺がん、前立腺がんが続いている。がんにより亡くなった人の数(死亡数)については、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順になっている。乳がんや前立腺がんのように罹患数に比べて死亡数が少ないがんがある一方で、肝がんや膵臓がん、胆のうがんなど、罹患数と死亡数の差が小さいがんもあるということもわかる。

部位別5年相対生存率の全国との比較(%)



出典: 全国がん罹患モニタリング集計2009~2011年生存率報告

全部位進行度別5年相対生存率の全国との比較



領域：リンパ節転移 + 隣接臓器浸潤

発見時の進行度別に5年相対生存率を見ると、限局で90%以上であるのに対し、領域で60%、遠隔で15%程度に低下しており、早期発見・早期治療の重要性がこのデータにも現れている。

出典：全国がん罹患モニタリング集計2009～2011年生存率報告

新型コロナウイルス感染症による市町村がん検診への影響

○ 受診者数への影響

	受診者数(人) (受診率)				受診者数の減少率		
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	H30→R1	R1→R2	R1→R3
胃がん検診 50～69歳、2年ごと※ ¹	19,987 (13.0%)	19,179 (11.4%)	14,165 (10.2%)	18,439 (10.9%)	△4.0%	△26.1%	<u>△3.9%</u>
大腸がん検診 40～69歳、1年ごと	50,343 (14.6%)	48,660 (14.3%)	39,017 (11.7%)	44,023 (13.3%)	△3.3%	△19.8%	<u>△9.5%</u>
乳がん検診 40～69歳、2年ごと※ ¹	26,897 (25.2%)	25,384 (24.8%)	20,044 (22.8%)	22,009 (22.0%)	△5.6%	△21.0%	<u>△13.3%</u>
子宮頸がん検診 20～69歳、2年ごと※ ¹	34,091 (19.7%)	30,293 (19.3%)	28,369 (18.5%)	22,875 (19.2%)	△11.1%	△6.4%	※ ²
肺がん検診 40～69歳、1年ごと	55,783 (16.2%)	53,819 (15.8%)	42,826 (12.8%)	48,492 (14.7%)	△3.5%	△20.4%	<u>△9.9%</u>

※¹ 本資料では、2年連続の受診者も計上

※² 子宮頸がん検診については、R3年度から統一運用を開始し、全市町村において指針に基づく年齢、間隔で検診が実施されたことにより対象者が減少した影響を受けるため、受診者数の減少率(R1→R3)は未算出。

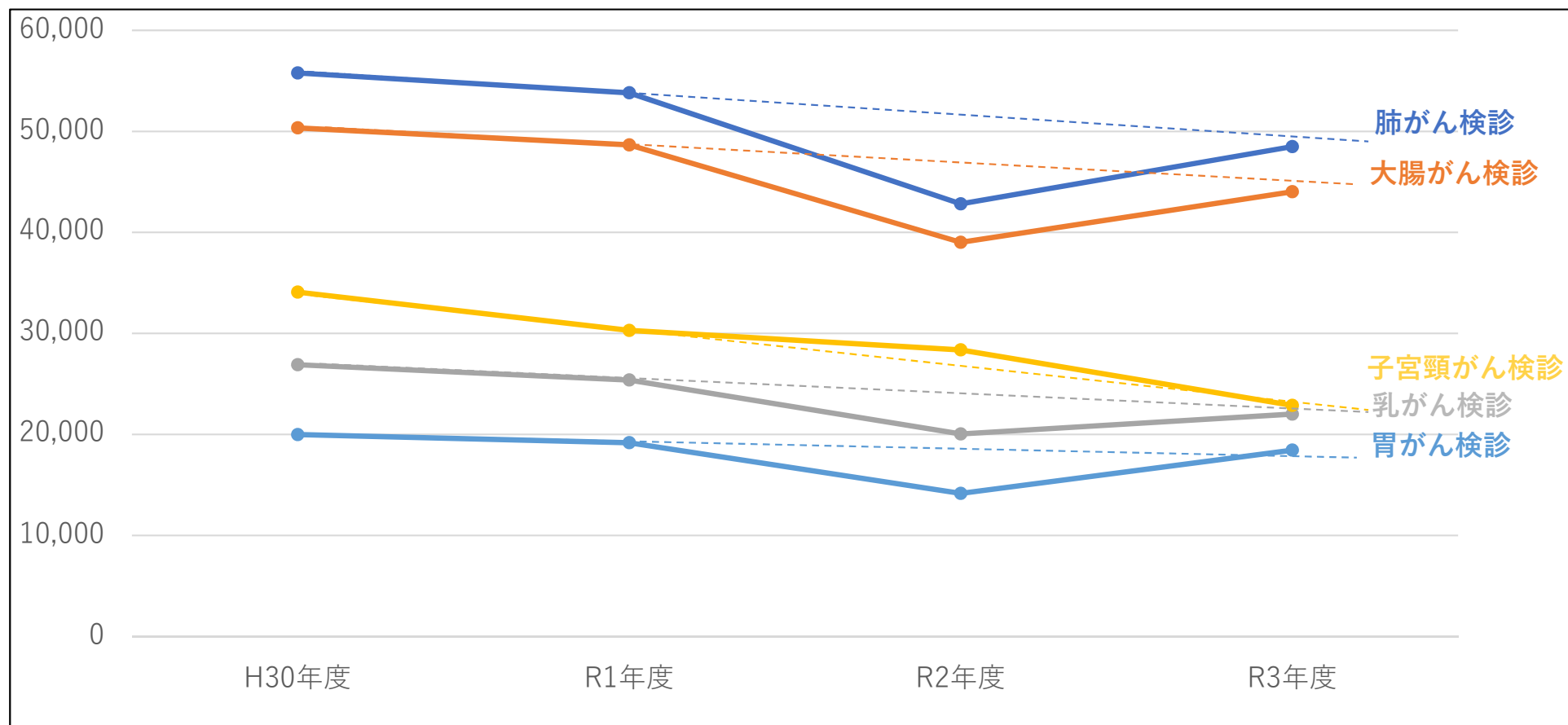
(注) R3年度の受診者数は山梨県が調査した速報値であり、地域保健・健康増進事業報告に基づいた確定値でない

- 大きく受診者が減少したR2年度と比べ、R3年度の受診者数は回復している。

(胃がん、乳がん、子宮頸がん検診の受診率は、2年間の受診者数を使用するため、当該年度の受診者数が増えても受診率は増加しない場合がある。)

新型コロナウイルス感染症による市町村がん検診への影響

○ 受診者数への影響



※ 点線は、「H30年度からR1年度の減少傾向が翌年度以降も継続した」と仮定した場合の受診者数を表す。
(注) R3年度の受診者数は山梨県が調査した速報値であり、地域保健・健康増進事業報告に基づいた確定値でない

- R3年度の受診者数は、H30年度からR1年度の減少傾向が続いた場合の想定受診者数(点線のグラフ)とほぼ変わらないことから、新型コロナウイルス感染症による市町村がん検診への影響は、ほぼ解消されたと思慮される。

院内がん登録(2019～2021年)からみる新型コロナウイルス感染症の影響

<県内がん診療連携拠点病院等における院内がん登録数>

(1) 全部位の推移 (上皮内がんを含む) 括弧内は対前年増減率

	山梨県立中央病院	山梨大学医学部附属病院	山梨厚生病院	富士吉田市立病院	4病院合計
2019年 (令和元年)	1,992	2,227	392	505	5,116
2020年 (令和2年)	1,984 (△0.4%)	2,101 (△5.7%)	247 (△37.0%)	486 (△3.8%)	4,818 (△5.8%)
2021年 (令和3年)	2,161 (8.9%)	2,326 (10.7%)	292 (18.2%)	474 (△2.5%)	5,253 (9.0%)

- 2020年(令和2年)

全国においては、前年の登録数と比べて60,409件の減少(平均4.6%減少)。
 本県においては、前年の登録数と比べて 298件の減少(平均5.8%減少)。
 厚労省の見解は、

「新型コロナの影響により早期がんを中心にがん発見数が減少したものである可能性が高い。」

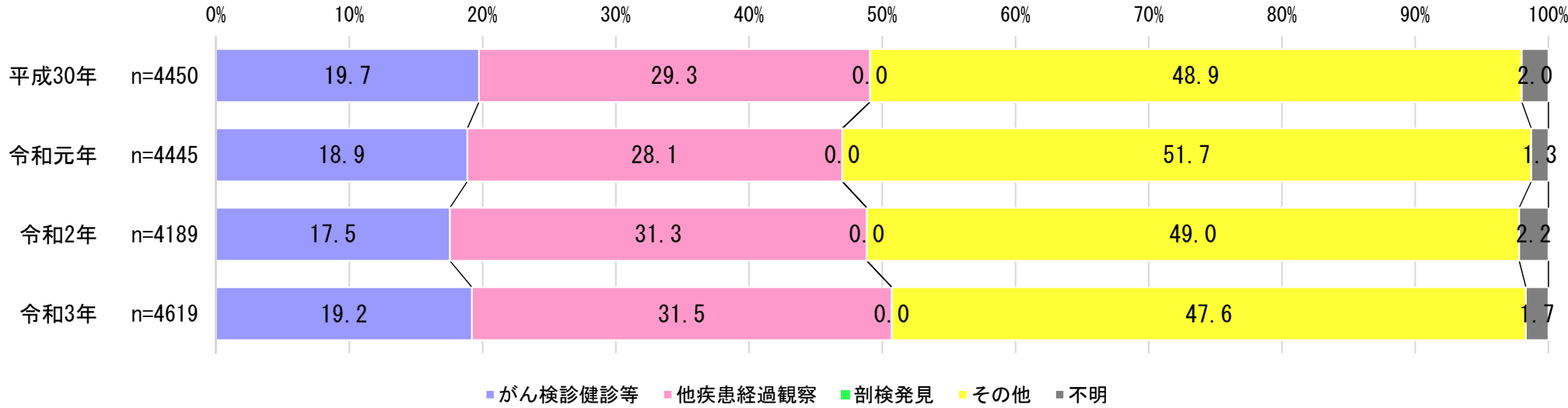
- 2021年(令和3年)

全国においては、前年の登録数と比べて41,271件の増加(平均5.5%増加)。
 本県においては、前年の登録数と比べて 435件の増加(平均9.0%増加)。

院内がん登録(2019~2021年)からみる新型コロナウイルス感染症の影響

(2) 全部位の見発経緯別推移 (上皮内がんを除く) 括弧内は総数に対する割合

	総数	がん検診・健診等	他疾患経過観察	剖検発見	自覚症状等	不明
2018年 (平成30年)	4,450	878 (19.7%)	1,306 (29.3%)	0 (0%)	2,177 (48.9%)	89 (2.0%)
2019年 (令和元年)	4,445	838 (18.9%)	1,251 (28.1%)	0 (0%)	2,299 (51.7%)	57 (1.3%)
2020年 (令和2年)	4,189	735 (17.5%)	1,311 (31.3%)	0 (0%)	2,051 (49.0%)	92 (2.2%)
2021年 (令和3年)	4,619	887 (19.2%)	1,455 (31.5%)	1 (0%)	2,198 (47.6%)	78 (1.7%)



・ がん検診・健診等による発見は、2020年は全体の17.5%に低下し、2021年に19.2%に上昇

精密検査受診率改善への取組みについて

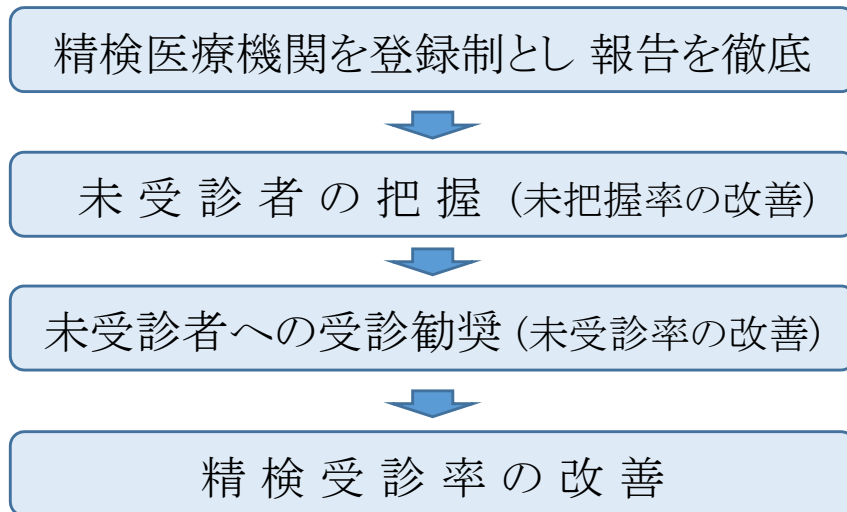
○ 令和元年度精密検査受診率 40～74歳, *¹胃50～74歳, *²子宮頸部20～74歳

	胃* ¹		大腸	肺	乳房	子宮頸部* ²
	(エックス線)	(内視鏡)				
全国 (%)	80.8	93.9	71.1	83.7	89.5	74.8
山梨県 (%)	79.9	60.7	68.8	81.8	84.7	60.3
都道府県順位	33位	44位	40位	37位	42位	46位

出典：令和元年度（2019）がん検診のプロセス指標
（R2年度地域保健・健康増進事業報告）

○ 令和3年度から子宮頸がん検診の県下統一運用を開始

< 概要 >



< 結果(速報値*) >

※山梨県産婦人科医会調査

令和3年度の個別検診で

要精検となった件数 356件
うち、精検医療機関からの報告数 330件



要精検者の92.7%が精検を受診

(集団検診を含まないため、最終的な受診率は変動する可能性がある)

< 今後の取組み >

令和3年度から、胃・大腸がん検診の県下統一運用について検討・協議を開始